出水市の種子島楽

【所　在　地】出水市麓（種子島楽保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 42 年 3 月 31 日

昔は旧暦７月１日に，出水麓の仮屋馬場で「夏踊り」といって各地から太鼓踊りが出て踊るものだったといわれ，麓地区の農民はこの種子島楽を踊ったのであった。出水の地頭種子島弾正久基の遺徳をしのんで，種子島に伝わる大踊りを移して踊りはじめたものといわれる。

踊り手は，女装して花笠をかぶり，鉦を持ったカネ役の男の子たちが十数人，花笠をつけスリガネを持った青年のメハチ３人，小太鼓を胸につって歌をうたう青年のイレコが９人，これを中にしてその外を宮太鼓という大太鼓を左脇にかけ毛笠をかぶった青年６人ほどと，イレコと同じ小太鼓を持った青年 20 人がとりまく。

輪になっての踊りに歌がつくので「歌ん場」といい，全員が列をつくって蛇行跳躍するのを「山ん場」といっている。この太鼓踊りは「歌ん場」の歌を中心とするやや哀調をおびた調子と優雅な踊りに特色がある。